

牛久市図書館協議会議事概要		日時	令和6年10月21日（月）
件名	令和6年度第1回図書館協議会	場所 時間	牛久市立中央図書館 視聴覚室1 14:00～15:00
作成年月日	令和6年10月22日（火）	作成者	教育委員会中央図書館 ： 諏訪部
出席者	（出席委員）佐々江健治、大原洋子、東郷香、田中久弥子、唯根正一、朝田香世 （牛久市） 川村始子（教育長）、小川茂生（教育部長）、高橋頼輝（次長） （事務局） 山越義弘（館長）、五十嵐孝典（副参事）、諏訪部なずな（主事） （傍聴者） 0名		
	(順不同・敬称略)		
議事内容	1. 牛久市立中央図書館の運営状況について 2. ヤングアダルト層の図書館利用促進について 3. その他		
会 議 内 容 等			
1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員自己紹介 4. 職員紹介 5. 議事 議題第1号 牛久市立中央図書館の運営状況について 上記内容について、事務局より資料に基づき内容説明を行った。 委員長：牛久市立中央図書館の運営状況についてご質問、ご意見はございますか。 委員：要覧16ページで来館者数が21万人となっていますが、重複した人物を数えない実来館者数は牛久市の人口8万人のうちどのくらいなのでしょう。 事務局：実来館者数は統計で取得していないデータになります。類推できる統計資料としては利用者カード登録数がありますが、団体を抜いた個人の利用者カード登録数はおよそ3万3千人です。ただし、カードを所持していても図書館を利用していない方もいらっしゃるため、実際にはこの数字よりも少なくなるかと思われます。 委員長：要覧19ページの年代別貸出状況で、以前は59歳までの利用がもっとも多かったかと思います。段々と利用の多い年代層が69歳まで、70歳以上と、高くなってきているのは、その年代の方がよく読書をしているということでしょうか、何か原因は考えられるのでしょうか。 事務局：こちらの統計結果を鑑みるに、その年代だけではなく、すべての年代で貸出数はスライドしている状態です。また、次の議題にもかかることですが、中高生、大学生の若い年代層の読書離れ・活字離れが近年とみに顕著であり、課題であると考えております。 委員：若年層はやはりスマホゲームなどの、読書とは別の魅力的なことに時間を割いて活字を読まなくなっていますし、文科省も学校での授業にICTを推進しています。私は高校で国語の教鞭をとっていますが、現代文の授業でもプロジェクターを使用します。他教科だと黒板はすでにメモ書き程度にしか使用せず、メインはあくまで画像や映像などになってきています。長文を読む経験が少なくなっていると思います。			

委員長：他にご意見ご質問はありませんか。

では、特にないようですので次の議題へ移ります。次の議題第2号「ヤングアダルト層の図書館利用促進について」事務局より説明をお願いします。

議題第2号 ヤングアダルト層の図書館利用促進について

上記内容について事務局より資料に基づき内容説明を行った。

委員長：委員の皆様からは質問、ご意見等ございませんか。統計を見ていると、確かに中高生、大学生の貸出冊数は非常に少なく、また、段々と減少していますが、何か原因はあるのでしょうか。

事務局：やはりスマホやパソコンなど、他に情報を得る手段ができ、図書館を利用しなくなったことが大きい要因であると推察されます。教育現場など、図書館以外の場でも何か若年層の読書推進について皆様のお考えを伺えれば幸いです。

委員長：若い人たちは文学に興味がないのでしょうか。

事務局：読みやすいライトノベルは値段もさほど高くはないことから、リアルタイムで追いかけて、最新刊を自分で購入する人もいるため、既刊が多く出版されているような長寿シリーズなどが図書館に置いてあると意外と借り出されることもあります。ただ、実際に今の10代の方の興味がある作品を図書館職員だけで推し量るのも難しいという現状もあります。

委員長：図書館の学習室には学生の姿もよく見かけますが。受験などで忙しく学習参考書しか読まないのでしょうか。

委員：私には二人の娘がいます。20代の娘は本好きですが、10代の娘は本が嫌いというほどではないけれど、積極的に読書はしません。普通の今時の子です。議題をいただいた際に、家で娘に聞いてみたところ、やはりスマホの方が面白く、多様なコンテンツが見られるし、部活や勉強で忙しいので長編を読むのは難しいとのことでした。その一方で、皆さんの言うとおりの、自分のお気に入りの作品については最新刊を購入して読んでいます。

また、「子どもは」と言いますが、私たち大人も本を読んでいないのではないのでしょうか。子どもにだけ本を読めと言っても難しいのでは。そして、図書館にどんな面白い本があるのか知らないのだと思います。読書は基本的に非常に長い時間を必要とするコンテンツですから、ショートショートなど、短時間で読み終わるものが若い世代には受け入れやすいのではないかと思います。

先ほど学習室の話が出ましたが、図書館は本を貸出するだけでなく、友人と会って、勉強できる、そういう使い方もいいし、学習できる場を提供しているというだけで非常に価値のあることだと思います。地道ではありますが、学習室の壁におすすめの本のPOPを貼ってみるなどしてみたいかと思いますが。

委員長：中学生や高校生、大学生を何人か集めて、どういう本なら読みたいか聞く機会を設けてもよいのでは。

館長：そういったことで中学校、高校に協力を仰ぐことは可能なのではないでしょうか。

委員：市の公共施設の今後の取り組みにあたるので、ぜひ中学生に考えてもらいたい内容だと思います。ただ、他にも多くのアンケートがあり、子どもたちもアンケート慣れしてしまっているのが現状です。他に埋没しないようじっくり取り組めたらいいのでは。

委員：中学生も高校生も十分に対応可能だと思います。

本が好きで、読書が生活に入り込んでいる生徒と、そうでない生徒の差が顕著であると感じています。けれど、本を読まない生徒でもテスト前の期間は図書室に勉強しに来ます。そして何時間もずっと勉強しているだけではなく、休憩がてら棚を見ている生徒もいます。学習室も閉鎖するだけでなく、棚との境界性を曖昧にすることで、少しずつ本を手取るようになっていくのでは。

委員：ヤングアダルトということでしたが、中高生になる前、もっと小さい時から「図書館は楽しい所だ」と経験してもらうことが、忙しくなって一時的に離れてもまた戻ってくる環境づくりにつながるのでは。

委員：学校の朝読書の時間がなくなったのは、意外と大きなことなのではないかと思っています。普段は違う遊びをしている子どもも、その時間だけは必ず読書をします。働き方改革なのも、先生方が大変忙しいのも重々承知していますが、縮小する形ででも再開できないものでしょうか。

牛久市教育委員会：確かに、本を読まない生徒児童にはいい時間でした。その一方で、小テストなどでどうしても時間が取れない面もあります。

委員：翌年のカリキュラムを決める会議で、先生方から必ず最初にカットの提案がなされるのが朝読書の時間です。私は朝読書を「一日を落ち着いた気持ちで始めるための静寂の時間」として継続させてきたのですが、やはり様々な変更があり、一日の間にしなければならないことがあまりにも増えすぎているのが現状です。また、以前ほど朝の静寂の時間を強調しなくとも当たり前に落ち着いて過ごすことができる子どもたちが多くなっています。

小中学校では、たくさん本を読むと県知事などから表彰を受けられ、学校でも称賛するものがあります。時間がなく難しい中ではありますが、学校の負担にならない形で取り組みができればと思います。

委員長：図書館というと静かな場所だという印象がありますが、声をだしてもいい、独自分類で棚に本を並べる、そういう図書館があるという話も聞きます。来るのがもっと楽しくなるような図書館があってもいいのでは。

委員：奥野で読み聞かせをしているのですが、そこの中学生から、自分たちも読み聞かせをしたいという要望がありました。以前は中央図書館で中学生が行う読み聞かせ会がありましたが、コロナの流行や先生の引率の問題もあり、開催されなくなり、同じ形で復活は難しいかと思います。けれど、こういった活動はつながっていくので、今の中学生も小さいころに読み聞かせをしてもらったから自分も同じように下の学年の子どもたちに読み聞かせをしたいと思うものです。そうして育った子どもたちが自分の子どもに読み聞かせをするようになり、たとえ絵本であっても本に選ぶことに抵抗がない大人になるのでは。

部活や受験で忙しい中高生、その時期に本を読めというのは、酷だと思います。自分の子どもにも、とても言えませんでした。その忙しい時期を過ぎれば子どもたちはまた自然に自分の興味のある本を手に取りました。忙しい時期にわざわざ中央図書館に来させて本を読ませるというのはかなり難しいのでは。もし、そうしたいのであれば、中高生にとって興味のあるイベントや企画をするのも一つの手段ではないかと思いますが、ヤングアダルト層の前と後を手厚くするのが現実的などころではないでしょうか。

また、ライトノベルには続きものが多いので、リアルタイムで連載しているものを図書館で借りるというのは考えたことがありませんでした。図書館で予約して順番を待ってというのには向いていないように思います。映画化するような、原作が何年も前に出版されている作品は別ですが。

委員：古くなった資料の処分はどうしているのでしょうか。

事務局：図書館の資料は一定の基準に基づいて除籍しています。たとえば、出版から20年が経過し内容が古くなった資料、汚損破損により使用に耐えなくなった資料などです。これらは基本的に、廃棄するのではなく市民の方へリサイクル資料として提供したり、福祉施設への本の配送事業に使用したりしています。

委員：リサイクルショップなどは賑わっているのに、雑誌など人気のある資料をひとところに集めて解放すれば人が集まるのではないかと思うのですが。

事務局：コロナ流行以前は、年に一度としょかんまつりにて「雑誌リサイクル市」というイベントを開催しておりました。これは非常に人気のあったイベントで、廊下に並びきれないほどの人数にお集まりいただきました。だからこそ感染対策として中止されたという経緯があり、まだ復活できていない企画になっています。再開すればまたお集まりいただけるのではと思います。ご意見ありがとうございます。

その他

委員長：今回の議題にかかわらず、ご意見やご質問があればお願いします。

委員：利用者カードを作成するためにはどのような条件がありますか。

事務局：牛久市に住民票をお持ちの方、相互利用協定を結んでいる龍ヶ崎市民の方、牛久市に通勤通学されている方が利用者カードをお作りいただけます。

委員：私はつくばに住んでいて、職場と実家が牛久にあり、娘は龍ヶ崎に通学しています。その条件だと娘はどれにもあてはまらないので、学習室の利用はできないということですね。同じような方もいらっしゃるかと思いますので、検討していただければ。

6. 閉会